

临沂市概況



【基礎情報】(2024年)

- 人口: 1094.38万人(省内1/16位)
- 面積: 17191km²(省内1位)
- GDP: 6555.8億元(省内5位)



【党委書記 張宝亮】

1972年3月生まれ、濱州出身
2025年4月～現職

(前任: 任剛・青島市市長)



【市長 于勝涛】

1972年3月生まれ、文登出身
2025年10月～現職

(前任: 張宝亮・临沂市党委書記)

【歴史的エピソード】

- ◆ 諸葛孔明(三国時代)、王羲之(東晋)の生誕地。
- ◆ 沂蒙山地区は、日中戦争及び国共内戦時の中国共産党の革命根拠地。
- ◆ 1970年代、漢代の墓から「孫子兵法」(孫武による兵法書)を記した竹簡が出土。
- ◆ 1989年、临沂市から日照市が分離して地級市に昇格。
- ◆ 地名は市内を流れる沂水河という川の名に由来。

【現在の特徴】

- ◆ 山東省で人口・面積ともに最大。人口は中国の行政区でも10位以内。
- ◆ 気候が温かなため農業・林業が盛ん。中国最大の木材産業基地の一つ。
- ◆ 近年は物流ハブとしても有名で、「南の義烏、北の臨沂」と呼ばれる。
- ◆ 特産・名物: 缶詰(販売量は全国の1/3)、金銀花(生産量は全国1位)、蘭陵県のニンニク、莒南ロバ肉(山東省内では聊城市・高唐とともに有名)、魯南五大調(郯城県に伝わる音楽形式)等。

【日本との関係】

- ◆ 在留邦人数: 8人(2025年3月現在)
- ◆ 友好都市: なし
- ◆ ODA: 沂南県孫祖中学校校舎建設計画を含む草の根・人間の安全保障無償資金協力2件の実績あり。

- ◆ 直行便(2025年10月現在): 大阪(九元航空)。

【日本とゆかりのある地・施設】

◆ 王羲之故居

古代から現代に至る著名な書家の書体を石碑で紹介する一角に、日本の書家・柳田泰山氏の作品もある
(外国人は柳田氏と韓国人の2名のみ)。



【観光地】

◆王羲之故居

書聖と呼ばれる王羲之は紀元前303年に当地で生誕。明の時代に現在のように造園式に建設された。洗硯池も見所の一つ。



◆蒙山

市の北西に位置し、山東省で最も広く、泰山に次いで二番目に高い山（海拔1156メートル）。



◆諸葛孔明政里記念館

諸葛孔明はこの地で13歳まで生活していたとされる。敷地内は祠があるが、周囲を含め特に観光地化はされていない。



◆銀雀山漢墓竹簡博物館

1970年代、銀雀山の漢代の墓から7500余りの秦朝以前の兵法書を記した竹簡が出土。20世紀100大考古学大発見の1つと言われる。これら出土した竹簡を展示する博物館。



◆琅琊古城

琅琊国をテーマとして作られたテーマパーク。園内では、様々な歴史的故事を題材としたショーを楽しめる。園内にある劇場では、毎日2回「国秀琅琊」という歴史ショーが演じられている他、夜に行われる「水秀ウォーターショー」は家族連れに大人気。



【グルメ】

◆光棍鶏

鶏の煮込み料理。発祥の沂蒙山区で料理人が男性、鶏も雄のみだったことから光棍（ごろつき）の名前が付いた。



◆全羊湯

沂蒙山区の伝統料理。現地産の黒山羊を使い内臓や血も一緒に煮込んだもの。



◆紅焼兔頭

蒙陰県の伝統料理。ウサギの頭をピリ辛に煮込んだ料理は栄養補給に適し、視力の改善にも効くとされる。

